

別紙 1

令和6年度 女子美術大学 冬季高校美術科教員対象研修会（講義・実技）実施講座 [12/26(木)]

■申込方法：12/5（木）10:00 より受付開始（12/16（月）18:00 受付終了）

*先着順。定員に達し次第随時終了

右記 QR コード (https://www.joshibi.ac.jp/for_teachers/20241226) 内のフォームより、

①本学相模原キャンパスで講義系研修・実技系研修会全て参加（9:30～17:30）

または、②オンラインで講義系研修のみ参加（9:30～12:00）を選択いただき、お申込みください。



講義系研修（9:45～12:00）相模原キャンパス *オンライン受講可

*講義系研修Ⅰ・Ⅱを受講後、実技研修を受講いただけます。

*オンラインで受講される場合は、講義系研修のみとなります。

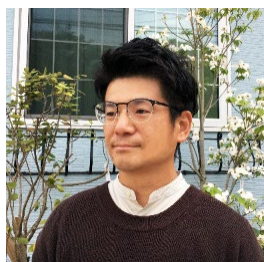
講義系研修Ⅰ（美術）（9:45～10:45）

『檀像とは何か？—木彫像の素材とステータスを知る—』

内容

みなさん、史上初の仏像をつくった人物をご存じですか？また、その仏像に使われた素材は何だったか分かりますか？一口に仏像と言っても、その素材は様々です。ブロンズ像、石彫像、木彫像、塑像、さらには漆を使った乾漆像など。今回の講座では、「檀像（だんそう）」という木彫像に焦点を当てて、単なる仏像の様式論ではなく、東アジアの文化史的視点から、素材そのものがもつステータスや、素材に対する信仰心について解説します。

美大生は、自身の内面に宿る感性をアウトプットして作品づくりをおこないます。でも、日々、手を動かす実技の授業だけを受けている訳ではありません。同時に、座学の理論の授業の中で、作品づくりにインスピレーションを与えてくれるような過去の作品を探索し続けています。作品そのものを考察することで、その素材が選択された理由やデザインの由来を知り、そうした基礎的な学習を通して、学生たちは先人の想いを自身の内面にインプットしていきます。今回の講座では、美術史の分野から「理論と実践」を重視する女子美の教育の一端をご紹介しますので、皆様の日々の教育に役立てていただければ幸いです。



<講師>

檀山満照 准教授
芸術学部
国際芸術文化専攻／
共通専門

講義系研修Ⅱ（デザイン）（11:00～12:00）

『モノゴトを俯瞰して見るチカラ』

内容：

世の中は、さまざまな事柄が複雑に絡み合い、互いに影響し合いながら動いています。何か提案や解決策を考える際には、これらの関係性を的確に捉え、根本的な課題を見つけることが大切です。また、提案や解決策が与える影響についても考慮する必要があります。そのような場では、多様な立場やバックグラウンドを持つ人々とのコミュニケーションが欠かせません。俯瞰した視点から広く世の中の動向を捉えると共に、さまざまな想いや意見を引き出し、それを可視化することで共通認識を形成します。そして、自分自身の想いや意識を見つめ直し、自分ごと化することで、変化や価値を生み出すチカラを養っていきます。今回の講座から、モノゴトを俯瞰して見ること、俯瞰から考察することの重要性を感じていただければと思います。



<講師>

織原千絵 教授
芸術学部
共創デザイン学科